

日本堆積学会 2013年千葉大会 プログラム

<日 時> 2013年4月10日(水)～15日(月)

10日(水): フィールドセミナー: 前弧海盆における堆積作用とシーケンスの形成

11日(木): フィールドセミナー

12日(金): フィールドセミナー

13日(土): 個人講演, 特別講演, 総会, 懇親会他

14日(日): 個人講演, 特別講演, ミニミニシンポジウム, 顕彰, 堆積学トーク・トーク他

15日(月): 巡検(日帰り): 3.5 Maの相模トラフとその近傍での堆積作用

<会 場>

千葉大学西千葉キャンパスけやき会館ほか

千葉大学西千葉キャンパスへのアクセス: <http://www.chiba-u.ac.jp/access/>

けやき会館までのアクセス: http://www.chiba-u.ac.jp/img/common/keyaki_map_L.gif

http://www.chiba-u.ac.jp/pdf/keyaki_map.pdf (PDF版)

注: 駐車場スペースが限られていますので, 公共交通機関をご利用下さい。

4月10日(水)午後～12日(金)18:00

<フィールドセミナー>

前弧海盆における堆積作用とシーケンスの形成: 上総層群を中心に深海から浅海・沿岸域で形成された地層の特徴を観察します。

講師: 伊藤 慎氏

※JR千葉駅発-JR千葉駅着の日帰りの予定です, 宿は確保しておりません。各自ご用意ください。

4月13日(土) 会場:けやき会館

8:55-9:00

会長挨拶

伊藤 慎

<口頭発表の部>

【座長: 池田昌之】

01 9:00-9:15 東北沖津波により発生した混濁流のダイナミクス

新井和乃・成瀬 元・川村喜一郎・三浦 亮・日野亮太・伊藤喜宏・

稲津大祐・入野智久・池原 研・村山雅史・横川美和・泉 典洋

02 9:15-9:30 AMS ファブリックを用いた古流向解析による仙台平野を遡上した津波の挙動

澁谷剛丈・高清水康博

03 9:30-9:45 谷地形における 2011 年東北沖津波による堆積物の空間分布

阿部朋弥・後藤和久・菅原大助

04 9:45-10:00 2011 年東日本大震災が岩手県大槌湾周辺の浅海底堆積物および底生生物に及ぼした影響

清家弘治・白井厚太郎・小暮潔央

休憩 (10:00-10:10)

【座長：阿部朋弥】

05 10:10-10:25 巨大津波によって形成された礫質な津波堆積物の特徴と分類

仁科健二・川上源太郎・田近 淳

06 10:25-10:40 琉球列島北部の地震・津波履歴と規模

後藤和久・須田陽介・今村文彦・本郷宙軌・八木勇治

07 10:40-10:55 海底自然堤防形態の定量的解析

中嶋 健・Ben Kneller

休憩 (10:55-11:05)

【座長：泉賢太郎】

08 11:05-11:20 波浪卓越型沿岸域の堆積物の起源と集積パターン

吉河秀郎・根元謙次

09 11:20-11:35 数 100m スケールで変化する重力流堆積物の内部構造：特に基底面の起伏との関係

石原与四郎・瀧井喜和子

【座長：新井和乃】

＜ポスター発表ショートトーク＞ 11:35-12:00

1 件あたりの講演は 1 分以内とします。

昼休み (12:00-13:10)

＜ポスター発表の部＞ 13:10-14:20

ポスターは 4 月 13 日 (土) 8 時 30 分より掲示できます。4 月 14 日 (日) の 17 時 00 分までに撤収をお願いします。

P1 仙台湾陸棚から日本海溝の 2011 年地震／津波イベント堆積物

池原 研・金松敏也・宇佐見和子・入野智久・

ジェンキンズ・ロバート・芦寿一郎

- P2 日本海溝底堆積物中の地震性タービダイト:岩相, 層序と年代
池原 研・金松敏也・宇佐見和子・Strasser, Michael・Fink, Hiske・長
橋良隆・Wefer, Gerold・ゾンネ SO219A 及びみらい MR12-E01 乗船研究者
- P3 3.11 東日本大震災イベント堆積物の OSL 測定
北沢俊幸・新井和乃・成瀬 元・石丸卓哉・横川美和・齋藤 有・松本 弾・
佐藤智之・田中源吾・泉 典洋・亀尾 桂・KT-12-9 乗船研究者
- P4 東北地方太平洋沖地震後の日本海溝斜面における小型底生生物の分布
北橋 倫・野牧秀隆・ジェンキンズ ロバート・嶋永元裕・藤倉克則・小島茂明
- P5 仙台空港東方沿岸地域における平成 23 年(2011 年)東北地域太平洋沖地震に伴う巨大
津波による侵食と堆積の局所的変化
川辺孝幸・志岐常正
- P6 有機物分析による海底地震堆積物の特徴. 別府湾とスマトラ沖の例
大村亜希子・池原 研・芦 寿一郎
- P7 掛川層群宇刈層の有孔虫化石群集の産出パターンと現地性・異地性
廣木義久
- P8 孔隙充填型ガスハイドレートの分解による脱水作用の可能性とその堆積学的意義
伊藤拓馬・江川浩輔・皆川秀紀・成田英夫
- P9 完新世の海水準上昇と対馬海流の発達による堆積プロセスの変化:福岡沖陸棚海域
西田尚央・池原 研
- P10 貧砂状況からのデューン形成過程に関する水路実験
谷口圭輔・遠藤徳孝
- P11 蛇行河道のモデル実験:流量と河床物質の効果
吉田一希・宮田雄一郎
- P12 半遠洋性シルト岩の形成における混濁流の影響評価:下部更新統上総層群の解析例
黒澤志保・三井麻由・伊藤 慎
- P13 十和田八戸イグニブライト直上にみられるチャンネル埋積型ラハール堆積相
鎌田耕太郎
- P14 沖縄周辺海域における過去 2 万年間の堆積速度変化とその要因
天野敦子・板木拓也
- P15 大阪平野の沖積層中の天満砂州堆積物:その層位と分布
櫻井皆生・増田富士雄
- P16 三浦半島南部, 鮮新統初声層に発達する斜交層理の形成プロセス
柴田健一郎・伊藤 慎
- P17 塊状タービダイト砂層の古流向と粒子ファブリックの関係
下梶秀則・宮田雄一郎
- P18 超ロングタイプジオスライサーを用いた海底堆積物採取

- 市原季彦
- P19 房総半島中部更新統長南層の陸棚外縁三角州前縁で形成されたハイパーピクナイト
布施雅也・中村圭助・伊藤 慎
- P20 3次元地震探鉱データを用いた堆積システム解析例
西村瑞恵・高野 修
- P21 台風17号で木津川高水敷にできた砂床形群
坂本隆彦
- P22 ジャワ島ジョグジャカルタ周辺の中新統サンビピトウ層の水中火山砕屑物の形成プロセス
アリフ・ラフタマ・伊藤 慎
- P23 ジャワ島西部漸新統バヤ層の河川システムの形成とスندگان南縁の環境変動
ビリー・アディプルダナ・伊藤 慎
- P24 カレントリップルラミナのクライミング様式から混濁流の脈動を探る
石澤慧太・伊藤 慎

<口頭発表の部>

【座長：伊藤 慎】

- OP1 14:20-14:55 **特別講演：地球環境化学マップと同位体堆積学**

中野孝教

【座長：北沢俊幸】

- 010 14:55-15:10 四国海盆半遠洋性泥の Sr-Nd-Pb 同位体比から示唆される鮮新世の黒潮強化
齋藤 有・石川剛志・谷水雅治・村山雅史
・IODP 第333次航海乗船研究者

休憩 (15:10-15:20)

- 011 15:20-15:35 Fluid mud による粗粒リップルの保存プロセス：茨城県南部上部更新統木下層

西田尚央

- 012 15:35-15:50 氷上を流れる流体によるステップ地形の発達

横川美和・泉典洋・内藤健介

- 013 15:50-16:05 海底チャネル・レビーシステムの自発的形成過程：水槽実験による予察的検討

成瀬 元・佐藤亘孝

【座長：伊藤 慎】

- OP2 16:05-16:40 **特別講演：堆積相解析から文化財そしてジオパークへ**

桂 雄三

休憩 (16:40-16:50)

<総会> 16:50-17:50

<懇親会> 18:00-20:00 (コルザ (けやき会館 1階))

4月14日(日)

<口頭発表の部>

【座長：齋藤有】

014 8:30-8:45 7年目を迎える地質の調査研修(4泊5日：日本地質学会主催)の概要と効果について—特に、堆積学的研究における野外調査の役割の重要性の再認識にも言及しつつ—

徳橋秀一

015 8:45-9:00 IGCP608(地質科学国際研究計画:International Geoscience Program)「白亜紀アジア—西太平洋生態系」の活動と今後の展開

安藤寿男

016 9:00-9:15 最終氷期の日本海における流氷の盛衰とその意義

角和善隆・中嶋健・富山隆将・町山栄章・石濱佐栄子・松本良

017 9:15-9:30 生物源堆積構造が記録する動的な古環境情報

奈良正和

休憩 (9:30-9:40)

【座長：西田尚央】

018 9:40-9:55 北海道蝦夷層群における白亜紀 OAE”風化仮説”の検証

太田 亨・上形由布子・浅野 将

019 9:55-10:10 石狩低地東縁断層帯南部の反射法音波探査;崖と背斜

佐藤智之・内田康人・興水健一・岡村行信

020 10:10-10:25 大陸風化速度変動を反映した遠洋性層状チャートの堆積リズム

池田昌之

休憩 (10:25-10:35)

ミニシンポジウム:古東京湾

【座長：中澤 努】

10:35-10:40 趣旨説明

OS1 10:40-11:00 中・上部更新統下総層群の堆積システム・堆積シーケンスからみる“古

東京湾”の環境変遷

岡崎浩子・中里裕臣・佐藤弘幸

- OS2 11:00-11:20 古東京湾のバリアー島システムと堆積シーケンス —解明されたこと・解明されるべきこと—

西川 徹・西田 尚央・伊藤 慎

- OS3 11:20-11:40 常陸台地における下総層群の層序・年代・堆積史～「木下層のバリアー島」の発達時期に着目して～

横山芳春・大井信三・安藤寿男

- OS4 11:40-12:00 関東平野中央部の更新統下総層群の堆積シーケンス:古東京湾内湾域の堆積相累重様式

中澤 努・中里裕臣

- 12:00-12:15 討論およびポスターショートトーク (シンポジウム)

【座長：清家弘治】

〈ポスター発表ショートトーク〉 12:15-12:30

1件あたりの講演は1分以内とします。

昼休み (12:30-13:40)

〈ポスター発表の部〉 13:40-14:50

ポスターは4月13日(土)8時30分より掲示できます。4月14日(日)の17時00分までに撤収をお願いします。

- P25 Fluid mud 堆積物の堆積構造と微細組織

戸田数馬・西田尚央・伊藤 慎

- P26 房総半島中部更新統万田野層下部に基づく礫質沿岸堆積相の特徴化

高岡進一・伊藤 慎

- P27 南房総白浜層に記録された3.5 Maの相模トラフで発生した混濁流の反転とポンディングならびにインジェクションの形成

伊藤 慎・芝崎 透・西田尚央・小竹信宏

- P28 黒色頁岩中の生痕化石 Chondrites の地球化学, 及び記載岩石学: 初期続成過程における生痕形成生物の重要性

泉 賢太郎

- P29 揚子江懸濁物濃度および鉱物組成の季節変動

入野智久・斉藤京太・鈴木克明・多田隆治・LUO Chao・ZHENG Hongbo

- P30 中新世に西南日本島弧南方に発達した巨大海底扇状地群

成瀬 元・朴 進午

- P31 東部南海トラフ第二渥美海丘の中部更新統タービダイトシーケンスにおけるメタンハイドレート貯留システム
小松侑平・藤井哲哉
- P32 長野県中野市柳沢遺跡の土壌分析に基づく縄文期以降の古環境変遷
保柳康一
- P33 釧路平野の最終氷期最盛期以降の開析谷充填物の特徴と形成過程
高清水康博・阿部祐一・大塚 拓・澁谷剛丈・鈴木信也・石井千尋・三山裕基
- P34 大型はぎとり試料による砂粒子配向の自動測定
宮田雄一郎・下梶秀則
- P35 徳島県鳴門市瀬戸町・鳴門町地域に分布する上部白亜系和泉層群板東谷層の堆積環境
菊地一輝・小竹信宏
- P36 相対的海水準変動にともなう陸棚斜面とデルタの前進—北部フォッサマグナ中新統小川層の例—
関 めぐみ・保柳康一
- P37 常磐沖堆積盆における坑井物理検層を用いたシーケンス層序解析
古内 薫・荒戸裕之
- P38 有機炭素の安定同位体比と海水準変動の関連
小林由季・保柳康一
- PS1 関東平野中央部のボーリングコアの地蔵堂層から産出する有孔虫化石
金子 稔・石川博行・野村正弘・中澤 努
- PS2 更新統下総層群のテフラ層序と課題—特に MIS との対応—
中里裕臣・中澤 努・坂田健太郎
- PS3 関東平野中央部鴻巣地域における下総層群の層序と層相の特徴
納谷友規
- PS4 関東平野中央部の地下600m以浅に分布する更新統の層序—浅海成層の詳細対比への試み—
納谷友規・植木岳雪・本郷美佐緒・八戸昭一・水野清秀
- PS5 茨城県常陸台地における下総層群の主要テフラ層序
大井信三・横山芳春・安藤寿男
- PS6 中・上部更新統下総層群の堆積システム・堆積シーケンスからみる“古東京湾”の環境変遷
岡崎浩子・中里裕臣・佐藤弘幸
- PS7 古東京湾のバリアー島システムと堆積シーケンス —解明されたこと・解明されるべきこと—
西川 徹・西田尚央・伊藤 慎

PS8 常陸台地における下総層群の層序・年代・堆積史～「木下層のバリアー島」の発達時期に着目して～

横山芳春・大井信三・安藤寿男

PS9 関東平野中央部の更新統下総層群の堆積シーケンス：古東京湾内湾域の堆積相累重様式

中澤 努・中里裕臣

<口頭発表の部>

【座長：佐藤智之】

021 14:50-15:05 三次元サイスミック地形学手法による三陸沖前弧堆積盆中新統深海斜面システムの解析

高野 修・西村瑞恵

022 15:05-15:20 砂岩の組成変化から推定されるルーフィングとアンルーフィング

別所孝範

023 15:20-15:35 九十九里浜漂砂系と大規模洪水イベントによって支配された一宮川河口偏倚サイクル

七山 太・目代邦康・大井信三

【座長：伊藤 慎】

OP3 15:35-16:10 **特別講演：生物攪拌(bioturbation)の実態と堆積学への応用**

小竹 信宏

休憩 (16:10-16:20)

<事務連絡> 16:20-16:25

<最優秀口頭発表賞ならびに最優秀ポスター賞の発表と授賞式> 16:25-16:35

休憩 (16:35-16:45)

<堆積学トーク・トーク> 16:45-18:45

会場：けやき会館会議室4

注意事項

<口頭発表>

*口頭発表は発表 12 分、質疑応答 3 分です。発表時間を厳守して下さい。

*口頭講演は液晶プロジェクターの使用を標準とします。ただし、OHP が必要な方がおられる場合は用意いたしますので、その旨を必ず 4 月 5 日までに申し込みアドレス宛にお知らせ下さい。会場側でパソコン(Windows, Macintosh)を 1 台ずつ用意します。口頭発表される方はファイルの入った CD もしくは USB メモリを持参下さい。なお、持参いただくメディアおよびファイルにつきましては、ウィルス対策ソフトの最新定義で事前にチェックを頂きますようお願い致します。

ファイルは遅くとも講演前の休憩時間までに会場の PC に直接コピーしてください。心配な方はご自分のパソコンを持参ください。

＜ポスター発表＞

*ポスターは 13 日と 14 日の 2 日間に渡って掲示することができます。ポスター 1 件あたりの展示可能スペースは縦 180 cm, 横 90 cm です。ポスターには、必ずポスター番号を記入して下さい。はぎ取りなど重量物の展示を希望される方は、4 月 5 日までに申し込みアドレス宛にお知らせ下さい。

*ポスター発表のショートトークは 1 人 1 分以内でお願いします。液晶プロジェクターを使用して発表する場合、**使用するスライドはタイトルスライド以外に 1 枚でお願いします。**なお講演を円滑に進めるために、用意して頂いたスライドはあらかじめこちらで 1 つのファイルにとりまとめます。4 月 5 日までに講演の申し込みアドレス宛に、パワーポイントファイルを送付いただくようお願い致します。